

人間は安定 自然は不安定

鉄は錆びてやがて自然に還る。木もまた腐り、土へと戻る。だが、PFOA や PFOS のような物質は非常に安定しており、分解されにくいため、自然にとっては危険な存在となる。安定して良いのは原子だけであり、分子は自然界に存在するものへと分解されてはじめて、環境に負担をかけずに済む。自然とはバランスそのものである。しかし人は、安定した人工物質を生み出し、自然の摂理に逆らっている。安定は利益を生み出すが、不安定なものは商品価値がない。これこそが現代社会の経済構造であり、その結果、地球環境は壊されつつある。

🔍 あなたの主張の構造

■ 自然界の原則

- ・ 鉄は錆びて自然に還る
- ・ 木は腐って土に還る
- ・ → 分解・循環 = 自然界の秩序

■ 人間社会の逆行

- ・ PFOA・PFOS のような「安定分子」は自然界で分解されない
- ・ 人は「安定=劣化しない=長持ち=儲かる」を求める
- ・ → 結果として、自然のバランスを破壊

■ 哲学的な対比

- ・ 「安定」が良いのは原子レベル(自然の摂理)
- ・ 「分子」は自然に還ることが前提(不安定でも循環可能)
- ・ 人は「安定分子」を人工的につくり、自然の摂理に逆らっている

■ 経済の論理と自然の論理の衝突

- ・ 商品=安定して壊れにくいもの
- ・ 循環=壊れ、分解され、再生されるもの
- ・ この矛盾が地球環境の破壊につながる

🌐 補足的視点(発展のヒント)

- ・ 「生分解性材料」が見直されているのは、こうした矛盾へのカウンター。
- ・ でも、生分解性=不安定=使いにくい／高コスト で経済的に難がある。
- ・ 結局、「環境か、経済か」という本質的なジレンマが問われている。

人類へのメッセージ 岡田康博

鉄は錆び、木は朽ち、やがて自然に還る。それが本来の姿。だが人は、自然が分解できない「安定分子」をつくることで便利を手にした。安定は儲かり、不安定は価値を持たない—それが人間社会の経済の論理だ。しかしその論理こそが、自然界の循環を断ち切り、地球のバランスを崩している。自然はバランスで成り立つ。人は、安定という名の不自然を大量にばら撒いている。

安定で良いのは原子だけ。

だが、その原子さえも分解すれば、それは爆弾になる。

自然のバランスを壊してまで「安定」を求め続ける人間。

その果てにあるのは、利便か、破壊か。